

自然の中の危険性

この連休中、三男がへビの画像を撮ったと言って見せてくれました。我が家の畑の近くの建物の脇にいたということ、すぐさま撮影したようです。

私はその画像を見てすぐに気付きました。それはヤマカガシでした。息子は当然それを知りません。最近畑仕事をやっていると、カエルが例年より多くいるように感じていたので、いても不思議はありません。ヤマカガシの好物はカエルですから。

私はすぐに現場に向かい、ヤマカガシを遠くへ追っ払いました。家に帰ると、息子がヤマカガシを検索し、「毒があるんやね」と言いました。彼は二十五歳にして初めて、ヤマカガシを知ったようでした。私が以前勤めていたK中学校の近くには、赤マムシがよく出没していました。ある日、校舎の近くで一匹出ましたので、それをつかまえ、ペットボトルに入れました。そして、「このへビがいたら、刺激をしないこと」と張り紙をして生徒たちに注意喚起したことがあります。知らないからといって近寄り突いたりすれば、取り返しのつかないことになりかねませんから。

「暑さ寒さも彼岸まで」というように、ちょうどよい季節となり、熱中症の心配もずいぶん低くなってきたようです。暑さはだれもが感じるものですので、ある意味対策も取りやすいと言えます。しかし、危険生物については、知識や経験がないとわからないものであり、いつどこでそれらと遭遇するか見当が付きません。その分、情報や注意喚起を、謙虚に受け入れてほしいと思います。

私が初めてマムシを見たのは、小学生の時でした。父に付いて山に入った時のことです。いきなり父が近くの木の枝をナタで切り、縦に半分ほど切れ目を入れました。何をするのかと思ったら、急ぎよ作った巨大な割りばしの先をやや広げました。そして、それで何かを挟んだのです。それがマムシの頭でした。「これがマムシだからな」と父は教えてくれました。先のK中でも、父がやって見せてくれたようにマムシを捕獲しました。

時代が変わりました。山に入る大人は少なくなりました。当然、大人について山に入る子供もほとんどいません。（我が息子たちもそうでした。）自然の中の危険性については、これからどうやって情報や知恵を得ていくのでしょうか。

「山や川は危険だから」ということで関わりをもたなくなったら、それはそれで別の問題が生まれてきます。人間が自然とうまく付き合っていくためにはどうすべきか、今後の大きな課題です。

今日は学校とは関係のないことを書きました。迷いましたが、へビの知識がないために悲しい思いをする生徒を出さないように、調べて書いてみました。皆さんののできることは、ヤマカガシの画像を検索して、脳裏に焼きつけておくことです。体の側面の赤色が印象的なへビです。気を付けてくださいね。

（九月二十一日 記）